

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の英語科の未来へバトンをつなぐ



令和元年 8月発行
西部教育事務所

今回は7月9日(火)に四万十市立東山小学校で
行われた授業研究会の様子を紹介します。
東山小学校の先生方の他、四万十市内全小学校の
外国語担当者や、他市町村の小中学校教員等を含
め、総勢54名で学びを共有しました。



西部管内の
講座関係のHP

【提案内容】 小学校4年『Who am I? ~私はだれでしょう~』クイズ大会で友だちを紹介しよう!

教材『Let's Try! 2 Unit 4 What time is it?』

【授業者】 中越 一宏 教諭 (HRT)、池田 真代 教諭 (JTE)、マデリン・アームストロング (ALT) (四万十市立東山小学校)

新学習指導要領 領域別目標 (3) 話すこと [やり取り] ウ

サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

本時 (3/4 時間目) の目標

◆自分の好きな時刻や理由について、尋ねたり答えたりして伝え合う。

教材研究会で
明らかとなった
課題

①ゴールに向かう活動を適切に設定し、子供たちが豊かに表現できる授業を仕組んでいく。

- *インプット量を増やす。
(中学年では聞く活動を大切にインプットを十分にいき、自信が持てたところで話す活動に移る。)
- *活動のつながりや、適切な時間設定について検討する。

②中間評価の観点を明確にしておく。

(変容をどのように見取り、どのように全体共有するのか)



教材研究会を受けての改善策・工夫点

I 友達との交流までの場面

課題①の改善を図るために

- *インプットを図る場面や機会を増やす。
- *友達との交流場面で使わせたい表現 (以下: 本時の表現) へ思考の流れをつくる。

チャンツ

- ・既習表現をインプット



スモールトーク

- ・What time is it? から What time do you like? の表現にスムーズな流れをつくるとともに、課題意識を持たせて「めあて」の設定を行う
- ・本時の表現をインプット

本時 (3/4 時間目) のめあて

『Who am I? ~私はだれでしょう~』クイズ大会で友だちを紹介するために、好きな時刻と理由を伝え合おう。

デモンストレーション1

- ・活動の見通しを持たせる
- ・[やりとり] の内容を推測させる
- ・本時の表現をインプット



デモンストレーション2

- ・加わった表現や内容に気付かせる
- ・「生活時間」以外の質問を加えて良いことを確認する
- ・本時の表現をインプット



リズムチャンツ

- ・本時の表現をインプット

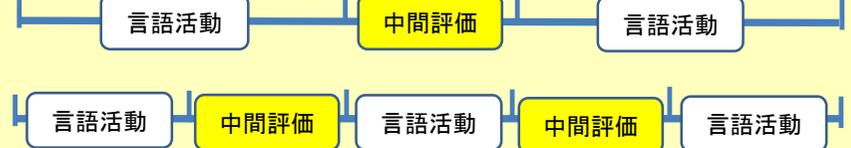
II 友達との交流場面

課題①の改善を図るために

- *1回の活動時間を短くし、言語活動と中間評価の回数を増やすことで、「見方・考え方」の成長を促す。

Before

After



期待する子供の姿・思考

- ★ジェスチャーを付けると分かりやすいな。
- ★Me,too. って言ってもらえた。伝わってうれしいな。自分もそうしよう。
- ★理由を聞けたから友達のことがもっと分かったよ。うれしいな。
- ★こんなことを質問したいけど、どうやって言えばいいのかな?
- ★そうか! そうやって言えばいいんだ。自分も使ってみよう。
- ★クイズ大会で友達を紹介するために、もっと他に聞いてみよう。 etc.

課題②の改善を図るために

- *中間評価の視点として次の2つを設定し、活動中に見取り、全体共有する。

- ・デモンストレーションで見せた表現を使っている児童
- ・1回目の改善点を基に活動している児童

2枚目に続く

視点①：本時の言語活動をより質の高いものにするための中間評価になっているか。

○2回の中間評価で、次の活動では何に気を付けると良いかを焦点化していったことにより、児童の表現が少しずつステップアップしていった。

●3人の授業者から多くの評価があったが、児童同士の会話を実際に見せ、友達との表現や態度面から、児童自身が自分に取り入れたいこと等に気付いていく過程もあればさらに良かった。

視点②：児童が積極的に「やり取り」をするための授業構成になっていたか。

○チャンツ、スモールトーク、デモンストレーション、リズムに合わせての練習等、たくさんのインプットがあった。

●活動に入る前に2種類のデモンストレーションを行ったが、2回目のデモンストレーションは、1回目の中間評価の後であれば児童自身が目的意識を持って取り組めたのではないかと。



講師：鳴門教育大学 中妻 佳代 准教授による指導・助言

「中学年」という発達段階（初めて英語を学習する）に応じた活動や中間評価を大事にする

(1)成功体験を積み重ねる。

中学年の外国語活動の目標は、言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することである。子供たちに、英語を使って「伝わった。」「伝えることって楽しいな。」と思える成功体験や、友達との関わりを大切にしたい楽しい体験、達成感を積み重ねることが大切である。このような成功体験が、高学年に上がり、少し難しい表現に出会った時にもチャレンジできる力につながっていく。

**(2)中学年に応じた方法でインプット量を増やす。**

本時の授業は、前回（教材研究会）の振り返りを基に、「インプットの量」を増やす活動がたくさん組み込まれていた。ジェスチャー付きのチャンツやリズムチャンツ等は中学年だからこそできることであり、英語に慣れ親しませるため、そして活動に変化を持たせるためにも中学年の発達段階には効果的である。

(3)ゴールに向かうための活動（内容や配列）や、中間評価の内容を熟考する。

本時の授業では2回の中間評価により、少しずつではあるが子供たちに変化が見られ、最後には「質問できた。」「友達のことを分かってくれたいな。」と多くの子供たちがこのような振り返りを書いていた。しかし、授業前半のチャンツ等の元気な声に比べると後半で声小さくなったのは、2回目のデモンストレーション（「反応」や「既習表現」を組み込み、内容をレベルアップさせたもの）のタイミングによるものではないか。2回目のデモンストレーションは、1回活動をさせてコミュニケーションポイントを押さえた後で良かったのではないかと。

中学年は一気に求めすぎると難しく、「言えた。」という達成感につながらない。「質」の向上を目指すためのスタートは、本校でも大事にされている Smile や Eye Contact、Clear Voice、Reaction 等のコミュニケーションポイントである。中学年ではまずこのポイントを大事にし、自信を持たせて次の活動や評価につなげたい。

(4)単元や本時のゴール、その時の活動で使わせたい語彙や表現を見定め、意図的にインプットしておき、子供たちの自信につなげる。

本時の授業では、「時刻（数字）」や「曜日」を扱っていた。既習の語彙ではあるが時間も経過しており、また週1回の授業では十分には覚えられない。そのため、どの時間にどの語彙や表現を使わせたいのかを見定め、その時間までに耳慣れさせたり、言わせたり、意図的にインプットしておくことが大切である。



《参考～(1)(2)に関して～》
学習指導要領解説 外国語活動・外国語編(P43)
「指導計画の作成上の配慮事項」より

…言語活動を行う際には、…理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行うこと。

参加者の声

- ☆中間評価の大切さ、中間評価でレベルアップを図るといことを自校でも取り入れたい。
- ☆言語活動を質の高いものにするために、中間評価の在り方を検討していかねばならないと感じました。
- ☆児童に達成感を持たせるため、どのように単元を構成し、見取っていくのか、これからも考えていきたいと思いました。
- ☆高学年、中学校、高校を見据えた中学年の外国語活動の指導の在り方や、興味を持たせること、基礎を押さえることの大切さを考えさせられました。
- ☆単元目標、ゴールとなる言語活動を意識して、学年に応じた活動を考えていきたいと思っています。私も頑張って英語で話したいと思っています。

今回の講座は、8月29日（木）です。持参物は『新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり』です。
※「We Can! 2」、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説『外国語活動・外国語編』」をお持ちの方はご持参ください。